

S-RED 通信

社会・地域創発本部 Society-Region Emergence Department

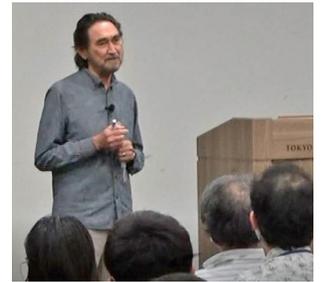
emmy fes 0.8 in 東京 (9/30)

北大 COI&NEXT が主催する emmy fes 0.8 が、9/30 に東京ミッドタウン日比谷で開催され、企業や行政、大学などの幅広い層から、50 名以上が参加しました。

ハートフルネス体験ワークショップ

新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる社会経済への影響や、不安定な世界情勢から、多くの人々が将来に不安を抱えて生活しています。私たちは、どうしたら幸せに暮らすことができるのでしょうか？その答えのヒントとして、スタンフォード大学教授でアメリカ心理学会フェローのスティーヴン・マーフィ重松氏は、『ハートフルネス』を提唱しています。『ハートフルネス』とは、マインドフル（心を「今、この瞬間」に向けた状態）に、他者への思いやりや責任をもって生きることで、幸福と変容を高める方法のことです。

ハートフルネス体験ワークショップでは、参加者はボールを使ったり、相手の目を見つめながら心をオープンにしてありのままの相手を受け入れたりするなど、普段なかなか意識をしない心の奥に目を向けるエクササイズを行いました。重松教授の講演とハートフルネスのエクササイズを通して、参加者は意識的に幸せな気持ちで心を満たす方法を学びました。



圧倒的な映像の力で感動を伝える

「臓器や細胞は、会話をするようにコミュニケーションし、それで私たちの命は成り立っている。この感動や素晴らしさをわかりやすく伝えるには、どんな方法がいいのだろうか？」NHK 番組『シリーズ人体・神秘の巨大ネットワーク』で、シリーズのメインディレクターを務めた、NHK エンタープライズ自然科学部シニア・プロデューサーの丸山優二氏が出した答えは、圧倒的な実写技術と超高精細の CG を駆使して、実際に見ているかのように、臓器や細胞の「会話」を再現することでした。丸山氏は、番組で使用した技術や、再現内容を専門家と確認する緻密な作業行程などを説明し、物事を自分事としてとらえてもらう際に、映像の力がもたらす大きな可能性について伝えました。



今後に向けて

北大 COI-NEXT 「こころとカラダのライフデザイン共創拠点」は、emmy fes などのイベントを通して蓄積してきた経験をもとに、専門家や行政、教育関係者の協力を得ながら、年内にハートフルネスとプレコンセプションケアを学ぶ場を道内につくり、プログラムを実施する予定です。

emmy fes 0.9 満を持してフェス開催！(11/5)

北海道大学 COI-NEXT は、健康で笑顔あふれる幸せな生活や、若者が自分らしく幸せに生きる社会、誰もが活躍できる社会を実現するための取り組みを行っています。その一環として、「笑（えみ）= emmy」を世界に広げていくために、多くの人がつながり、『若者がひととともに、自分らしく生きること』をテーマとした参加型イベント「emmy fes (エミフェス) 0.9」を、11/5 (土) に北海道教育大学岩見沢校で開催します。同校の特徴であるスポーツや芸術と、VR などのテクノロジーを融合した多彩なコンテンツで皆様をお待ちしています！

最新情報を
check!



自然と共生した新しい養殖技術で、魅力ある魚介類の安定供給をめざす

魚介類は食べたい。 でも価格が・・・

私たちの身近な食材である魚介類は、個体数の減少による価格高騰のため、多くの消費者にとっては、食べたくても購入をためらってしまう食材になりつつあります。こうした状況を打開する鍵として注目されているのが、養殖です。養殖の新しい取り組みを紹介し、魅力ある養殖



とは何か議論するため、長崎大学海洋未来イノベーション機構は、10/1、第9回東京セミナー『BLUEエコミーによる未来の水産業～安全・安心な水産物の持続的な利用に向けて』を開催しました。北海道大学からは、COI-NEXT 地域エネルギーによるカーボンニュートラルな食料生産コミュニティの形成拠点（以下、拠点）の石井一英 PL（画像の登壇者左から2番目）、同大水産科学研究所の都木靖彰教授、同研究所の高橋勇樹助教が登壇しました。

これからの養殖技術に注目

石井プロジェクトリーダーは、拠点のビジョン「自然と私たちが育む安心コミュニティ」を形成することが、食べ物やエネルギーに困らない、皆が繋がりが分かち合える、豊かな自然や生活を次世代に残せる、そしてなによりも自然と共生しながら楽しく生きるためには必要であることを述べ、都木教授は、そのためには地域資源をエネルギーとして利用した陸上養殖技術の確立とその社会実装が必要であることを力説しました。さらに、魅力ある魚介類を安定供給する未来への取り組みとして、高橋助教が実証実験を進めている、バーチャル空間で養殖を行うことで環境負荷・飼育・収益評価ができる「養殖シミュレータの開発」を紹介しました。今後の拠点での取り組みは、引き続き S-RED 通信でも配信していきます。



石井 一英

北大 COI-NEXT 地域エネルギーによるカーボンニュートラルな食料生産コミュニティの形成拠点プロジェクトリーダー
北大大学院工学研究所 教授

VOICE

上記のセミナーは、本拠点が水産部門で連携している琉球大学「サステイナブル陸上養殖拠点」（本格型）と長崎大学「ながさき BLUE エコミー」との合同セミナーであり、9/6 に開催された日本水産学会ミニシンポジウム「地域共創による水産業の活性化」に続く2回目の連携事業でした。セミナー後半では、料理家・食育インストラクターである和田明日香氏（料理家平野レミの嫁）とのパネルディスカッションで盛り上がりました。特に、天然嗜好の強い消費者に養殖魚の魅力をどのように伝えるのかを議論し、飼料などの育て方にこだわり良いネーミングを考えることもなど、良いアイデアが生まれました。

今後のイベント（予定）

10.14 イノベーションジャパン内
セミナー
(吉野 PL 登壇)

10.25 第4回参画機関会議

11.05 emmy fes 0.9 岩見沢

12月 参画機関会議

S-RED 通信バックナンバー

S-RED通信

